

(自学習の例)

NO.1 5月19日(火)

ガリンシャ (1933年~1983年) (プロサッカー選手、元ブラジル代表)

六歳の時に小児まひにみまわれた。ガリンシャの家は貧しく医者にかかる金などはなかった。その結果、彼の背骨はSの字状にゆがめ曲がり、両足が同じ方向にねじ曲がった。以後も軽度の知的障害が残り、小児まひの影響で左右の足の長さが異なるハンデを背負うことになった。

小さい時からサッカーが好きで友達と外で一日中やっていた。そして15歳の時にプロチームの入団テストに受けたが、自分のスパイクすら持ってないことや足の長さが違うこと、知的障害をもっていることなどを笑われたりしてどのチームにも受からなかった。

その後は地元の小さな工場で働き、その工場チームでプレーしながら細々と暮らしていたガリンシャだったが、19歳の時にもう一度プロテストに挑戦した。テストの時に対戦したのはブラジル代表のDFだった。誰もが「どうせ抜けないだろうし、受かるわけない」と思っていた。しかし、ハンデを背負ったはずのゆがめ曲がった足が予測のつかない動きを生み出し、何回もドルブルで抜き去っていった。そして対戦相手のDFが監督に「もうあいつとはやりたくない。早く合格させてくれ。」と訴えるほどだった。

その後、足のまひとずっと戦い、みがき続けた彼のドリブルは誰にも止められなくなっていた。彼のドリブルは神の領域と呼ばれるまでになり、20世紀最高のドリブラーとなった(21世紀はメッシ)。

そして、ブラジル代表に選ばれたが、監督が「障害をもつ人間を試合には出せない。」という考えだったためなかなか試合に使ってもらえなかった。しかし、チームメイトの説得により途中出場を果たし、そこから全て先発で試合に出るようになった。そしてワールドカップを2度優勝に導いた。彼が出場した代表戦の50試合のうち負けたのは1試合だけだった。